

山のトイレ事情の視察・体験ツアーの感想文について

道央地区勤労者山岳連盟 自然保護委員長 伊吹省道

当委員会が実施している「山のトイレ事情の視察・体験ツアー」は労山の会員に山のトイレ事情に関心を持ってもらうこと、そして山に行くときには携帯トイレを持参してもらうことを目的に実施しています。

実施しているツアーとして、2015年から参加して10年が経過している「美瑛富士携帯トイレブースの清掃パトロール」や2021年7月の「大雪山裏旭野営指定地における登山者の携帯トイレに対する意識・排泄状況のアンケート調査」に参加して登山者の排泄行動についての意識や実際はどうしているのかなどについて実態を知ることができました。また2022年から2024年の3年間に環境省が実施した「大雪山国立公園旭岳周辺登山道における携帯トイレブース設置効果検証業務」では、旭岳9合目（ニセ金庫岩）と裏旭野営指定地における携帯トイレブースの使用体験、および裾合分岐におけるセルフ組立式衝立型のトイレブースを実際に組み立ててみました。2024年9月には「NPO 法人かむい」さんが設置した大雪山赤岳駒草平の携帯トイレブースを使用体験しました。これらの視察・体験ツアーに参加した会員の感想文をご紹介します。

今回、この機会を与えていただいた山のトイレを考える会の仲俣事務局長さんに感謝申し上げます。

以上

トイレ視察活動に参加して

札幌山びこ山友会 岡崎さや香

私は去年、市民登山教室に参加して山岳会に入会しました。入会してからは、たくさんの山に登り自然の素晴らしさを実感しました。その中でトイレ視察活動に参加し、とても考えさせられました。

携帯トイレ、聞いたことはありましたが、どのように使用するのか私は知りませんでした。袋を広げて吸水シートを置き排泄又は排泄後に凝固剤を入れて固めて袋を密封する。携帯トイレブースに便座がある場合は便座に袋を設置し排泄する。下山後、携帯トイレ回収ボックスに入れる。ボックスが無い場合は、持ち帰る。回収ボックスの存在はこの活動に参加して初めて知りました。

初めてのトイレ視察は、美瑛富士避難小屋の携帯トイレブースでした。とても立派で天井が高く、匂い対策がされていました。トイレは綺麗でしたが、トイレ周辺に吐物があり残念な気持ちになりました。吐物は回収し下山後、携帯トイレ回収ボックスに入れました。大雪山裾合平のセルフ組立式のトイレブースは重たくて組立が少し困難な感じがしましたが、登山道からは全く見えず布も厚みがあって透けることは無く安心して使用できると思いました。赤岳の携帯トイレブースは、たくさんの無料携帯トイレが置いてあり驚きました。中は、吸水シート・凝固剤・高密度チャック袋が入っていました。美瑛富士避難小屋トイレ同様、匂い対策がされており不快感は全くありませんでした。便座に座ってみましたが、ぐらつきが無くしっかりしていました。

山岳地になぜ携帯トイレブースが必要なのか、尿尿の散乱による植物や水質への影響、悪臭、紙の散乱による自然汚染、登山道を外れて歩くことにより踏み跡ができ植生が衰退、裸地化が進行する。自然保護の観点や気持ちよく登山をするためにも、とても必要な事だと感じました。

安心して楽しく登山をするために、携帯トイレの使用方や携帯トイレブースの場所、この活動をたくさんの人に知ってもらいたいと思いました。

山のトイレの感想

札幌山びこ山友会 荒井 由樹子

山を初めてからも山の会に入会してから山のトイレの事は考えた事はありませんでした。そもそも山に入る前にはコンビニで用を済ましなるべく用を足さないようにしていました。ですが、登山をしていると山小屋のある所にはトイレがあり、そこにはペーパーもあって意外にも綺麗に整理されていたのを見て「いったい誰がトイレの掃除やペーパーを用意しているのだろう…。」ふと、思うことはありました。その時は使わせて頂いたのでトイレがあるのはとてもありがたかったです。

そして、山のトイレの事を知るきっかけとなったのは、山の会に入会して4年目になる頃でした。私に連盟の活動の話がきました。色々と活動がある中で担当を選ぶことになり自然保護が何をするのか想像が出来たので選びました。「自然保護」きっと花を観に行ったりゴミ拾いをしたりするのだろうと思っていました。それが活動に参加してみると、花の観察はありましたがほとんどが山のトイレの視察でした。その時はトイレを視察して掃除をするだけと思っていました。後になり知りましたが、ブースにはカウンターがありその場所にトイレブースの必要性を検証していました。自然保護委員になってから視察をした中でも印象に残った事をお伝えしたいと思います。

令和6年7月の美瑛富士トイレパトロールに参加した事です。残念ながら私は体調の都合でトイレの視察は出来ずその日は皆さんを登山口まで送りました。後の資料と写真でわかりましたがトイレブース付近の草の茂みに嘔吐物や排泄物があったとの事です。登山口や林道の柵にもトイレ周知をしているようですがこのような事はあり得る事ですね。想像を巡らせました。使い方がわからなかったのか、トイレ袋を持参していなかったのか、セットをするまで間に合わなかったか、ただただ、面倒だったか、持ち帰るのが嫌なのか、トイレ袋の存在を知らない。そう考えるとこうなることは自然な事かもしれません。ですが、外にあるのは綺麗な景色の中に誰が見ても残念な気持ちになるのではと思います。

もう一つは赤岳に行く駒草平です。10月の紅葉の綺麗な時期に行きました。ここのトイレブース内にはNPO法人かむいさんのお手製のトイレセットが無料で提供されて目立つようにポップも書かれ工夫が見られました。そしてトイレブースの中は6帖くらいの広さがあり避難にも使えるそうで天井はプラスチック製の天板で日が入り明るい開放的の室内でした。お手製の携帯トイレは携帯トイレを持たない登山者に認識してもらうにはいい機会になるトイレブースでした。

今年は初めて自然保護の活動をさせていただき、トイレの事、それを支えている方々の苦勞の活動を知る事が出来ました。

11月にありましたAsahidake Trail keeperの藤このみさんのトイレ作り苦勞話は面白くわかりやすく、登山道の周りに植物が戻りその植物が登山道を守る活動をされていました。他会の方々も含め、皆さんの活動があって綺麗な景色を楽しむ事ができています。ありがとうございます。

また、私も微力ではありますが自然保護の活動のできる事を今後も楽しく参加できればと思います。



美瑛富士携帯トイレブース清掃パトロールの参加して

スマイルマウンテンクラブ 畠山亞生

初日は、白金温泉、望岳台、白銀荘の回収ボックスの巡回。まずは鍵がかかっているボックスの存在を知りませんでした。しかし、私が知らないだけで、とてもよく使用されている状態を見ると携帯トイレ普及活動の大切さを感じます。参加して現状が把握できたのでとても良かったです。

改善点としては、トイレブースに

携帯トイレキッドを設置してほしいと思いました。なぜならトイレの周りに用を足した後がちらほらあったからです。個人で用意するべきとは思いますが、まずはアシストしてみても良いかと思います。

電波の繋がる所なら QR コードを置いて 1 個 500 円とかに設定、現金の箱も用意する。などで有料にしても良いと思いました。

裏旭野営指定地携帯トイレブース視察と体験

2024. 8. 17～18 小樽勤労者山岳会 山下敬子

以前より何度か、「山のトイレを考える会」の美瑛富士避難小屋の携帯トイレブース掃除に親子で参加させていただき、少しですが山のトイレ事情を間近で見て、知って、女性として切実な山の行動として大変興味を持ちましたし、これから将来も自然とどう向き合って山に入らせていただくのが良い方法になるのか勉強していきたくと思いました。

裏旭野営指定地携帯トイレブースは、設置される前のアンケート調査にも参加させていただいていたので、とても気になっていましたし、是非体験してみたくいつも一緒に参加している娘と申し込みました。

当日、裏旭野営指定地テ泊の参加者は私達親子を入れて5名。声の届く人数で大変楽しく登ることができました。

最初に見つけた旭岳石室横の携帯トイレブースは、少し離れた所に休憩場所があり結構な人がいるのに割と音が気にならない位に登山道とは離れていたように感じました。日当たりの良い場所なのと天井が無いので明るく風通しの良い、扉を開けてみてすぐに好印象を持った携帯トイレブースでした。

ここならいいね、と娘と話していました。

その後、ニセ金庫岩裏の昨年のトイレブース跡を見に行きましたが、ゴミは落ちていませんでした。しかし、場所を見ていてかなり岩の裏側で、ここならまだ観光客も登ってくる範囲なので誰か一人がティッシュ等を捨てたら「割れ窓理論」のようにすぐに他の人も捨て出し、ゴミだらけになる要素をとっても感じる場所だと思ったので今年は撤収したと聞きホッとしたのも事実です。

歩き出してから聞いた話では、やはり昨年この場所のトイレブースの使い方は汚かったということでした。そうやって場所移動したり、材料を変えたり試行錯誤しながら制作・設置していくものなのだと知りました。

裏旭野営指定地は大好きなテ泊場所、枯れていなければ水場もあるし静かで広い。ここにはどうしても女性として携帯トイレブースが欲しかった。

以前、アンケートをとった時にもそれを実感していた。テント内で済ませるにしても音が気になる。音姫（水流の音）をダウンロードして流すという方もいたが、それだと今しています、と言っているようなもの。当たり前だがテントは薄いので結構細かな音まで聞こえる時がある。本当にトイレ問題は切実だし、生き物として生理現象だから切り離せない。

今回、見学した裏旭と旭岳石室の携帯トイレブースは同じタイプだと思うが、とにかくスッキリしていて第一印象は「綺麗」でした。天井が骨組みしか無いので吹き抜けのような感

じで、よく天井の方に虫が溜まりやすいがそれが無い。

特に私は蛾が苦手で、蛾の入っているトイレには絶対に入れないが、それが無く安心して入っていられた。あと、ドアの開閉システムも興味深かった、石を重りにして自動でドアが閉まる作りだ。

よく、尻拭かず、と言われるドアを最後まできちんと閉めない人がいる。そうすると虫が入る、落ち葉が入る、埃が入る、汚くなる、開けただけで入る気を失う。

でも、このドアは閉め忘れても自動できちんと閉まるので安心だ、と同時にドアが風に煽られて壊れないような工夫もなされている。また、材料は木材を使用し、組み立ても大きな結束バンドのようなもので組んでいるので解体する時に手間が掛からないようにしている。解体して使わなくなった時の木材は木道補修に使用されるらしい。実によく先のことまで考えられているものだ。

携帯トイレブースの中にはフックが数個取り付けられていて、ウェットティッシュや除菌スプレー等が吊るしてあり、汚した場合は自分で処理できる工夫もされていた。もう汚れていた場合等の通報窓口のQRコードも貼られていた。

運良くこのトイレブースを制作された方が、近くでテント泊されていたので感謝の気持ちと使用後の感想を直に伝えることができた。女性の方だったことに少し驚いたが、随所に感じた細かな気配りにはこれで納得がいった。

至り尽くせりじゃないか！私はそう思ったが、それは個人差があるらしい。娘は若者なので少し抵抗というか不安があったらしい。扉の前で見張りをさせられた。

2日目に通った裾合平分岐にある今年設置された自分で立てて使う簡易式テントトイレブースは失敗だと思う。

まず、重い。ソロだととても一人で設置できそうにない。

そして、休憩ベンチに畳んで固定して備え付けてあるが、すぐ横の平らな場所に立てるとしてもベンチのすぐ横なので音も声も気になりできそうに無い。

一辺はドアも無いので、一方向フルオープンという感じだ。

それならきつと見えない草むらにお花摘みに行くか、もう少し我慢するかということになると思う。

来年度は改善されることを期待したい。

色々な設置場所、タイプや材料の違う携帯トイレブースを見たり体験したりすると、ますます丁寧に大事に感謝しながら使わせて頂きたいと心から思いました。

ご尽力いただいている関係者の皆様に感謝。

裏旭野営指定地携帯トイレブース並びに裾合平分岐の組立式トイレブースの視察・体験ツアーに参加して

スマイルマウンテンクラブ 竹内雅昭

この企画は、道央地区勤労者山岳連盟 自然保護委員会の主催で2024年8月17・18日に実施されました。参加人数は、裏旭野営場宿泊組5名、裾合分岐組立ブース視察の日帰り組5名の全10名でした。18日に中岳温泉で合流し、それ以後は一緒に視察してきました。

私は裏旭岳野営場にはいつも通るだけで泊まった事がなかったので、宿泊組で参加しました。

1日目 旭岳ロープウェイ姿見駅で集合、メンバー紹介の後登山開始。

まずは旭岳石室裏のブースを視察、問題なくキレイに使われていました。

次にニセ金庫岩周辺（去年はブースがありましたが、今年は撤去）の岩陰や草原等を隈無く見ましたが、排泄物やペーパー類の痕跡は見当たりませんでした。

次は今日の目的地である裏旭野営指定地に到着しテント設営前にブースを視察しました。ノブを回しましたが、開かなかったのがガチャガチャしてたら「キチンと回して下さい」と叱られました。（後で知りましたがその方、このブースを作った藤このみさんでした）

2日目 メンバーもそれぞれここのブースにお世話になり、日帰り班との合流地点の中岳温泉へ。

日帰りメンバーは先に着いていて、足湯に浸かっていました。

去年はここにもテント式のブース（去年お世話になりました）がありましたが、今年は撤去され、代わりに裾合分岐に組立式のブースが出来たということです。

全員が揃ったところで裾合分岐の休憩場へ移動、組立式のブースを視察しました。

「本当に自分で組立るんだ」と驚！ 貼付けの取説を読み、水を含んだ重いテントと支柱を持って指定の場所に固定・・・緊急時には間に合わない！しかも休憩所の人も気になります。誰かが言っていた「これなら大きなビーチパラソルの方が良くない？」も分かるような気がしました。

最後に旭岳ビジターセンターの携帯トイレ回収ボックスを視察がてら自らの使用済み携帯トイレを処分し終了しました。

今回の視察ではブースやその周辺で汚れや痕跡は見つからず、とてもキレイに使われていました。その背景には使用する人と維持管理する人たちの意識と努力が事を忘れてはなりません。

これは別の山の話です。登山道脇に排泄物と使用済みペーパーが落ちていて、私は見ても見ぬふりでしたが、同行のメンバーの一人が自分の携帯トイレを出して回収しました。

このような事が無ければ一番いいのですが、そんな場面に遭遇した時に自分自身もそのような行動が出来るような意識を持つ必要性を感じました。



裏旭岳野営場トイレブース